



Title	ニヴフ語東サハリン方言の昔話テキスト : チハロシュとウサギ
Author(s)	蔡, 熙鏡
Citation	北方人文研究, 6, 129-135
Issue Date	2013-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/52618
Type	bulletin (other)
File Information	jcnh06-08-CHAE.pdf



[Instructions for use](#)

〈研究ノート〉

ニヴフ語東サハリン方言の昔話テキスト —チハロシュとウサギ¹—

蔡 熙鏡

東京外国語大学大学院博士後期課程／日本学術振興会特別研究員

1. はじめに

ニヴフ語は、ロシアのアムール川下流域とサハリン島に居住しているニヴフの人々によって話されている系統関係の不明な孤立語である。

2002年のロシアの国勢調査の結果によるとニヴフの人口は5,162人であり、そのうちニヴフ語が理解できると答えた人は688人であるという²。しかしながら、丹菊(2008: 1)は「2007年時点での流暢な話者はいくら多く見積もっても100人を超えない」と述べており、話者のほとんどが70歳以上の高齢者であることを考えると、現時点では、話者数がさらに減っていることが予想される。

方言は、研究者によって若干の違いはあるものの、アムール川下流域とサハリン島の西海岸で話されている「アムール方言」、サハリン島北部のシュミット(Шmidt)半島地域で話されている「北サハリン方言」、サハリン島のトゥミ(Тумь)川流域と東海岸で話されている「東サハリン方言」、サハリン島のポロナイスク地方で話されている「南サハリン方言」に分けられる。

Kreinovich(1979: 296)によると、かつてのサハリン島では1つの方言が話されていたが、アムール川流域からサハリン島の北西部に移住してきたニヴフ集団との混成によりシュミット方言(北サハリン方言)ができたという³。さらに、服部(1955: 774)には「もとの日本領に居住した者は黒竜江地方のギリヤーク語は理解出来ず」という記述があり、当時の南サハリン方言は他の方言とかなり違っていたようである。

中川・佐藤・斎藤(1993)は、サハリン島の東海岸2ヶ所、西海岸2ヶ所、中央部1ヶ所、北部2ヶ所の計7ヶ所の出身者から聞き取り調査を行っているが、各方言間の関係については、未だ不明な点が多く残されている。風間(2009)は、ニヴフ語と近隣の諸言語、特にツングース諸語との類型論的な対照・言語接触に関して述べている。

本稿では、ニヴフ語東サハリン方言の話者であるヴァレンティーナ・サチグンさん(Валентина Николаевна Сачгун; 1935年生、女性)が語った昔話を紹介する。

丹菊(2004)と丹菊・パクリナ(2008)に「チハロシュ」というタイトルの昔話が収

¹ 本研究の調査に応じてくださったヴァレンティーナ・サチグンさん、ガリーナ・パクリナさん、現地調査の際にお世話になったエレナ・ビビコワさん、山田祥子さん、そして日ごろからご指導くださる風間伸次郎先生に心から感謝申し上げます。さらに、貴重なコメントをしてくださった査読者の方にも深く感謝申し上げます。なお、本研究の一部は、文部科学省科学技術研究費補助金(特別研究員奨励費; 課題番号24・10830)の助成を受けて行われた。

² <http://perepis2002.ru/> (2012年12月26日閲覧)。

³ この記述に関しては、研究者たちの間で意見が一致しているわけではない。詳しくは、中川・佐藤・斎藤(1993: 210-212)を参照。

録されており、他にもかなりの採録例がある。本テキストと内容が一部重なるところがあるが、異なるところもある。例えば、「チハロシュ」が水で住むようになった理由、そしてウサギを怖がるようになった理由などが本テキストでは語られている。

2. 語り手について

語り手であるヴァレンティーナ・サチグンさんは、1935年にサハリン島のウグヴォ村 Ыгво (ノグリキ地区) で生まれた。日本語に訳すと「黒い村」という意味であり、ガンコウランが多かったことからこの名前と呼ばれるようになったという⁴。彼女のご両親はお二人ともニヴフであり、母はニヴフ語しか話せなかった。彼女がロシア語を覚えたのは、1946年ノグリキの寄宿学校に入ってからで、ウィルタの先生からロシア語を教わり、そこで7年間勉強した。寄宿学校に入る前は、ニヴフ語で日常会話を行っていた。彼女は Kreinovich のほか複数の研究者の調査に協力したこともある。

3. 採録方法

本テキストは、2011年2月27日にノグリキにて録音されたものである。その後、現地から戻り、筆者が書き起こし作業を行ったが、不明な点があったため2012年9月14日に同方言話者であるガリーナ・パクリナ (Галина Ивановна Паклина) さんのご協力を得て、一緒に録音を聴きながら再度書き起こし作業を行った。

4. 表記について

本テキストは、基本的に音韻表記によっている。母音音素 /i, e, ə[i], a, o, u/ と子音音素 /p^h, t^h, c^h, k^h, q^h, p, t, c, k, q, f, r^h, s, x, ʒ, v, r, z, ʏ, ʋ, m, n, ɲ, w, j, l, h/ によってニヴフ語を表記する。但し、本稿では、丹菊 (2008) に倣い、無声破裂音の異音である有声破裂音 [b, d, dʒ, g, ɡ] を表記しわけてある。ニヴフ語において、子音音素の /r^h/ は無声摩擦音として扱われる。聴覚的には [ʀ] 音に似ているが舌に弱い振動を伴う。/r/ はその有声音である。

固有名詞の場合は、頭文字を大文字で表記し、明らかに言い間違いと考えられる箇所も、修正を加えず、そのまま示した。なお、テキストに振ってある通し番号は、筆者が便宜上つけたもので、文の切れ目を意味するものではない。本稿の形態素分析においては、ガリーナ・パクリナさんへの聞き取りのほか、Gruzdeva (1998)、Mattissen (2003) を参考にしたが、筆者の力不足で未だ不明な点、不十分な点がある。今のところ分析ができない場合は、グロスに「?」記号を付した。ガリーナ・パクリナさんの発音は、ヴァレンティーナ・サチグンさんと若干異なる場合がある。その場合は、ヴァレンティーナ・サチグンさんの発音採用した⁵。

⁴ ニヴフ語の əʏ- は「黒い」という意味。əʏ-əʏ-ahr^h 「ガンコウラン<黒い・黒い・実」。

⁵ 例えば、軟口蓋音と口蓋垂音、鼻音などに違いが見られる。

例) サチグンさん /awɲk/ : パクリナさん /awq/。

5. テキスト

(1)

təŋank	niv-gun	ŋa	ŋanyə-t	Potχ-roχ	qo-ŋa
昔	人-PL	動物	探す-CVB.3PL	Potχ-DAT	移動する ⁶ -時
q ^h eq	osk	ŋamac	nineq	ye-t	p ^h romsk r ^h o-t
キツネ	ウサギ	毛皮	少し	取る-CVB.3PL	自分 ⁷ 持つ-CVB.3PL

昔、人たちが狩りをしにポトゥフへ行った時、ウサギの毛皮を少し取って、持って行った。

(2)

Potχ-duχ	hungu-ŋa	ər ^h k	awŋk-xun	in-toχ	p ^h r ^h ə-t
Potχ-? ⁸	いる-時	夜	鴨-PL	3PL-DAT	来る-CVB.3PL
awŋk	c ^h e-t	q ^h oju-t	k ^h ikr-ux	p ^h ir ^h pir-t	
鴨	鳴く-CVB.3PL	騒ぐ-CVB.3PL	上-LOC	飛び回る-CVB.3PL	

ポトゥフで泊まっていた時、夜に鴨たちが現れて、彼らの上を飛び回りながら泣き騒いでいた。

(3)

in	t ^h uyr	iti-t	min	ŋafq-xun	t ^h uyr	iti-t
3PL	火	点ける-CVB.3PL	1PL.INCL	友達-PL	火	点ける-CVB.3PL
hunv-ŋa	naf	in	k ^h ikr-ux	p ^h ir ^h pir-t		
いる-時	今	3PL	上-DAT	飛び回る-CVB.3PL		

彼らが火を点けて、私たちの友達が火を点けている時に、彼らの上を飛び回っていた。

(4)

awŋk-xun	ha-fke	p ^h i	ŋajrəx-kir ^h	may-t
鴨-PL	そうである-CVB	自分	翼-INS	下りる-CVB.3PL
mif	lur ^h	za-ba	nivŋ	mu-t
地面	氷	打つ-CVB	人	変わる-CVB.3PL

鴨たちは、そのうちに翼で下りてきて、地面の氷を打つと人に変わった。

(5)

hud-γun	nivŋ	mu-t	C ^h aror ^h -kun
それ-PL	人	変わる-CVB.3PL	チハロシュ-PL
hud	C ^h aror ^h	mu-t	
それ	チハロシュ	変わる-CVB.3PL	

それら(鴨たち)は、人間に変わって、チハロシュになった。

⁶ パクリナさんによれば「水の上での移動」を意味するという。

⁷ パクリナさんによると p^hromsk は「自分」を意味するという。これに対して、Gruzdeva (1998: 55) は、p^h-r^homsk {REFL-with} と分析しており、丹菊 (2008) では、p^hromsk r^hod 全体を「連れて行く、連れて運ぶ」と日本語訳している。

⁸ 丹菊 (2004: 143) に -ruχ の形式が見られるが、場所格 -ux との違いは今のところわからない。

(6)

haŋa naf hu-niv-gun tol niv-gun it-t.
 それから 今 その-人-PL 水⁹ 人-PL 言う-IND
 それから、その人たち、水の人たちが言った。

(7)

in ŋacx-kun kəl-ta ut paq-ta ha-d-yun-furu.
 3PL 脚-PL 長い-ENU.3PL 体 短い-ENU.3PL そうである-IND-PL-HRS
 彼らは脚が長く、体が短かったようだ。

(8)

haŋa naf min ŋafq-xun-dox joto-t:
 それから 今 1PL.INCL 友達-PL-DAT 問う-IND
 それから、私たちの友達に聞いた。

(9)

“c^hin t^hamdzi p^h-vo-ux t^hamdzi ŋa tur^h-pər^hk
 2PL どんな REFL-村-LOC どんな 動物 肉-だけ
 ni-t^ha-d-yun?” ha-t jotot-ŋa min ŋafq-xun it-t:
 食べる-HAB-IND-PL そうである-CVB.3PL 問う-時 1PL.INCL 友達-PL 言う-IND
 あなたたちの村では、どんな動物の肉を食べているのか?と聞かれて、私たちの友達
 は言った。

(10)

“nin t^həl-f-tox ceqr-ŋ ŋa tur^h-pər^hk
 1PL.EXCL 遠い-NMLZ-DAT 跳ねる-ATTR 動物 肉-だけ
 ni-t^ha-d-yun-da” ha-t it-t.
 食べる-HAB-IND-PL-HILI そうである-CVB.3PL 言う-IND
 私たちは、遠いところに、跳ねている動物を食べているのだと言った。

(11)

huŋ-osk ŋamac xict-t in-aɣ idə-gu-t.
 その-ウサギ 毛皮 手に持つ-CVB.3PL 3PL-CAUSEE 見る-CAUS-IND
 (それから) そのウサギの毛皮を手に持って、彼らに見せた。

(12)

haga osk ŋamac nr^hə-ba huŋ-C^haror^h-kun
 すると ウサギ 毛皮 見る-CVB その-チハロシュ-PL
 sik tol-ux ceqr^h-t p^hxə-dox puŋŋa mu-t
 全部 水-LOC 跳ねる-CVB.3PL 戻る-DAT 鳥 変わる-CVB.3PL
 sik puŋ-t vi-ɬar^h-t ha-d.
 全部 飛ぶ-CVB.3PL 行く-PFTV-CVB.3PL そうである-IND

⁹ 本テキストにおいては「水」と訳しているが、丹菊 (2008) では「海、水界、水域、水」の意味を持つとしている。

すると、ウサギの毛皮を見た瞬間、そのチハロシュたちはみんな水の中で跳ねて、戻るために鳥に変わって、飛んで行ってしまった。

(13)

təŋank huŋ-osk C^hʰaror^h-kun nivŋ p^hi
昔 その-ウサギ チハロシュ-PL 人 自分

tol p^hi-gavr-d. mif p^hi-d-γun-furu.
水 住む-NEG-IND 地面 住む-IND-PL-HRS

昔、チハロシュたちは水ではなく、陸地で住んでいたそうだ。

(14)

haŋa naf osk-xun xu-t iŋ-ʰar-fke
それから 今 ウサギ-PL 殺す-CVB.3PL 食べる-PFTV-CVB

osk-xun vopu-tot hu-C^hʰaror^h-kun ŋay-t
ウサギ-PL 集まる-CVB.3PL その-チハロシュ-PL 追い出す-CVB.3PL

その時にウサギたちを殺して食べていたら、ウサギたちが集まって、そのチハロシュたちを追い出した。

(15)

in tol-roχ in-aχ vi-ʰar-gu-t
3PL 水-DAT 3PL-CAUSEE 行く-PFTV-CAUS-CVB.3PL

彼ら (ウサギたち) は水へ、彼ら (チハロシュたち) を追い出した。

(16)

hat həmdʒit naf C^hʰaror^h-kun
そして そういうふうに 今 チハロシュ-PL

tol osk rayrayu-d-γun.
水 ウサギ 嫌う-IND-PL

それでチハロシュたちはウサギを嫌うのだ。

(17)

hu-osk k^hlu-t ŋamac-ziŋ
その-ウサギ 怖がる-CVB.3PL 毛皮-さえ

hu-osk ŋamac k^hlu-d-γun-furu.
その-ウサギ 毛皮 怖がる-IND-PL-HRS

ウサギが怖くて、ウサギの毛皮さえ怖がるそうだ。

(18)

sik. sik.
終わり 終わり

略号一覧

-	形態素境界	DAT	与格	INS	具格
1	一人称	ENU	列举	LOC	場所格
2	二人称	EXCL	除外形	NEG	否定
3	三人称	HAB	習慣	NMLZ	名詞化
ATTR	連体形	HILI	焦点	PFTV	完了
CAUS	使役	HRS	伝聞	PL	複数
CAUSEE	被使役者	INCL	包含形	REFL	再帰
CVB	副動詞	IND	直説法		

参考文献

風間伸次郎

- 2009 「ニヴフ語と近隣諸言語との類型的異同・言語接触について」津曲敏郎(編)『サハリンの言語世界：北大文学研究科公開シンポジウム報告書』:127-144, 北海道大学大学院文学研究科.

丹菊逸治

- 2004 「サハリン・ニヴフの昔話(1)」『千葉大学ユーラシア言語文化論集7』:141-160, 千葉大学.
2008 『アジア・アフリカ基礎語彙集 51 ニヴフ語サハリン方言基礎語彙集(ノグリキ周辺地域)』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

丹菊逸治・パクリナ

- 2008 『V・サンギ採録ニヴフ語サハリン方言音声資料集(1)ーフトククさんの昔話と体験談ー』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

中川 裕・佐藤知己・斉藤君子

- 1993 「サハリンにおけるニヴフ語基礎語彙の地域差」村崎恭子(編)『サハリンの少数民族』:209-254, 文部科学省科学研究費補助金研究報告書.

服部 健

- 1955 「ギリヤーク語」『世界言語概説』下巻:752-775, 研究社.

Gruzdeva, E.

- 1998 *Nivkh*, Lincom Europa.

Kreinovich, E. A.

- 1979 *Nivkhskaa iazyk, Iaziki azii i afriki* 3: 295-329, Nauka.

Mattissen, J.

- 2003 *Dependent-Head Synthesis in Nivkh: A Contribution to A Typology of Polysynthesis*, John Benjamins.

Nivkh Folktale Text in East-Sakhalin Dialect: C^hχaror^h and Rabbit

Heekyung CHAE

Graduate student, Tokyo University of Foreign Studies / JSPS research fellow

This folktale was told by Mrs. Valentina Nikolaevna Sachgun who was born in the village Ygbo (Nogliki District) in 1935. The folktale was recorded in February 27, 2011 during my fieldwork in the village of Nogliki. Then I transcribed the folktale with the help of Mrs. Galina Ivanova Paklina, another speaker of the East-Sakhalin Dialect of Nivkh, in September 14, 2012.

C^hχaror^h and Rabbit

In the old days, People took some of rabbit skins and brought it with them when they go to Potχ for hunting. When they were in Potχ, ducks appeared at night and were fluttering over them and making noise while crying. They made a fire, when my friend had been making a fire they (the ducks) were fluttering over them.

The ducks came down with the wings and hit on the ice of the ground and then they changed into a person. They (the ducks) changed into a person, the C^hχaror^h. Then those people who are the people of water said. It is said that they have long legs and the body is short. Then, asked to my friend. “What kinds of flesh of animals do you eat in your village?” My friend answered. “We eat only the animals bouncing far away”.

(and then) he took the rabbit skin on the hand and showed it to them. At the sight of the skin of a rabbit, all of the C^hχaror^h jumped on the water and changed into the birds, and they flew away.

In the old days, C^hχaror^h is said to have lived in the water but in the land. When they killed the rabbits and were eating them, other rabbits gathered and drove out C^hχaror^h. The rabbits drove out C^hχaror^h into the water. That’s why C^hχaror^h hate rabbits. It is said that they fear even rabbit skins because they fear rabbits. The end, the end